

## 公益社団法人日本騒音制御工学会

## 平成 23 年度 事業報告

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日

## I. 一般的事項

## 1. 会員現況

会員種別	平成 23 年度			参考	
	2011. 4. 1 現在数 (A)	2012. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	16	16	0	16	0
正会員	1008	964	-44	996	-32
学生会員	20	18	-2	22	-4
賛助会員	105 社 (117 口)	103 社 (115 口)	-2 社 (-2 口)	107 社 (119 口)	-4 社 (-4 口)
団体会員 A	0 社 (0 口)	0 社 (0 口)	0 社 (0 口)	0 社 (0 口)	0 社 (0 口)
団体会員 B	13 社 (13 口)	13 社 (13 口)	0 社 (0 口)	13 社 (13 口)	0 社 (0 口)
団体会員 C	133 社 (133 口)	135 社 (135 口)	2 社 (2 口)	128 社 (128 口)	7 社 (7 口)

## 2. 公益社団法人への移行

平成 23 年 4 月 1 日に東京法務局宛に移行にかかわる登記の申請をし、登記手続きは完了した。登記により「社団法人日本騒音制御工学会」から「公益社団法人日本騒音制御工学会」へ移行した。移行に伴い平成 23 年 4 月 28 日に環境省（旧主務官庁）および総務省（新主務官庁）へ移行登記完了届を提出した。

## 3. 定款・規則等の制定・改正

- ・定款の変更（平成 23 年 4 月 1 日）
- ・会計処理規定の改正（平成 23 年 4 月 1 日）
- ・積立金取扱規則の改正（平成 23 年 4 月 1 日）
- ・役員報酬等及び費用に関する規定の制定（平成 23 年 4 月 1 日）
- ・役員及び評議員選出規則の改正（平成 23 年 11 月 21 日）
- ・役員及び評議員選出細則の改正（平成 23 年 11 月 21 日）
- ・日本騒音制御工学会会員規定の改正（平成 24 年 1 月 24 日）

## 4. 通常総会の開催

平成 23 年度の通常総会は、平成 23 年 5 月 18 日に弘済会館 4 階会議室「蘭」にて開催した。出席者は 612 名（うち委任状提出者は 544 名）であった。

## 5. 理事会並びに部会・委員会活動

平成 23 年度の理事会並びに部会・委員会等の活動状況は以下の通りである。

会議名称	期 日	場 所	主な審議項目
理事会	平成 23 年 4 月 26 日	東京工業大学 蔵前会館大会議室	平成 22 年度事業報告及び収支計算書について 平成 23 年度事業計画案及び収支予算案について
	平成 23 年 5 月 18 日	工学会事務所会議室	平成 23 年度の通常総会資料、評議員会資料について
	平成 23 年 8 月 2 日	工学会事務所会議室	規定等の見直しについて 平成 24 年春季研究発表会実行委員長の選任 I-INCE 総会への対応
	平成 23 年 9 月 14 日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス 教室棟 408 号室	規定等の見直しについて 平成 24 年春季研究発表会実行委員の選任
	平成 23 年 11 月 21 日	工学会事務所会議室	役員及び評議員選出規則の改訂 平成 24 年秋季研究発表会実行委員の選任
	平成 23 年 12 月 12 日	工学会事務所会議室	第 19 期役員選挙に係る候補者名簿の作成
	平成 24 年 1 月 24 日	工学会事務所会議室	平成 24 年度定時総会について 平成 24 年度事業計画及び予算案について 会員規定の改訂について 国際会議の支援について
	平成 24 年 3 月 26 日	工学会事務所会議室	平成 24 年度事業計画及び予算案について 学会規則等の改訂について 平成 23 年度の選奨 認定技士の認定
評議員会	平成 23 年 5 月 18 日	工学会事務所会議室	公益社団法人の認定 工学会の動向
総務部会	平成 23 年 7 月 15 日	工学会事務所会議室	規定等の見直しについて 平成 24 年春季研究発表会実行委員長の選任 I-INCE 総会への対応
	平成 23 年 11 月 15 日	工学会事務所会議室	役員及び評議員選出規則の改訂 平成 24 年秋季研究発表会実行委員の選任
	平成 24 年 1 月 17 日	工学会事務所会議室	平成 24 年度定時総会について 平成 24 年度事業計画及び予算案について 会員規定の改訂について 国際会議の支援について
	平成 24 年 3 月 21 日	工学会事務所会議室	平成 24 年度事業計画及び予算案

			について 学会規則等の改訂について 平成 23 年度の選奨 認定技士の認定
事業部会	平成 23 年 5 月 31 日	工学会事務所会議室	平成 22 年度技術講習会報告 第 78 回技術講習会準備状況 第 79 回以降の技術講習会について
	平成 23 年 7 月 12 日	工学会事務所会議室	第 78 回技術講習会報告 第 79 回以降の技術講習会について
	平成 23 年 11 月 2 日	工学会事務所会議室	第 79 回以降の技術講習会の準備 状況
	平成 23 年 12 月 13 日	工学会事務所会議室	第 79, 80 回技術講習会報告 第 81 回技術講習会準備状況 平成 24 年度事業計画
	平成 24 年 2 月 21 日	工学会事務所会議室	第 81 回技術講習会報告 第 82 回技術講習会準備状況 平成 24 年度事業計画
出版部会	平成 23 年 4 月 19 日	工学会事務所会議室	やさしい解説シリーズについて (方向性および WG の体制づくり を確認)
	平成 23 年 6 月 22 日	工学会事務所会議室	やさしい解説シリーズについて の進捗確認 新企画に係るアイデアの検討
	平成 23 年 9 月 29 日	工学会事務所会議室	JIS 化原案作成委員会への働き かけについて やさしい解説シリーズの名称や 体裁について
	平成 23 年 12 月 15 日	工学会事務所会議室	やさしい解説シリーズの名称に ついて 新企画についての検討
	平成 24 年 3 月 8 日	工学会事務所会議室	Dr. Noise の『読む』音の本シリ ーズについて 現状確認と進捗促進に向けての 検討
研究部会	平成 23 年 4 月 26 日	東工大蔵前会館会議 室	春季, 秋季研究発表会の準備状況 フォロー 分科会の活動状況フォロー 社会調査データアーカイブの論 文 Web 公表等
	平成 23 年 8 月 5 日	工学会事務所会議室	春季, 秋季研究発表会の準備状況 フォロー 分科会の活動状況フォロー
	平成 23 年 10 月 21 日	工学会事務所会議室	春季, 秋季研究発表会の準備状況 フォロー 分科会の活動状況フォロー 学生対象の発表会の検討等

	平成 24 年 1 月 25 日	工学会事務所会議室	春季, 秋季研究発表会の準備状況 フォロー 分科会の活動状況フォロー 規格検討委員会の設置について 等
平成 23 年秋季 研究発表会実 行委員会	平成 23 年 4 月 12 日	工学会事務所会議室	シンポジウムテーマの検討
	平成 23 年 4 月 22 日	工学会事務所会議室	シンポジウムテーマおよび Organized Session (OS) テーマの 検討
	平成 23 年 6 月 15 日	工学会事務所会議室	プログラムの編成
	平成 23 年 7 月 12 日	工学会事務所会議室	出展申込様式の作成
	平成 23 年 9 月 14 日	芝浦工業大学 (豊洲 キャンパス) 302 教室	会場準備、研究発表会準備状況の 最終確認
平成 24 年春季 研究発表会実 行委員会	平成 24 年 1 月 17 日	工学会事務所会議室	各担当分科会の OS 準備状況確認 今後の作業および産総研使用に あたっての事務処理等の確認等
	平成 24 年 2 月 8 日	工学会事務所会議室	プログラム編成(論文数 39 編)、 当日の役割分担について等 委員会後、会場下見
平成 24 年秋季 研究発表会実 行委員会	平成 24 年 1 月 18 日	日本大学理工学部 524 会議室	委員紹介、開催日程・場所の確認、 開催会場の設定、役割分担
研究発表会企 画委員会	平成 23 年 4 月 27 日	東工大蔵前会館会議 室	春季, 秋季研究発表会の企画, 準 備状況フォロー 研究会運営マニュアルの整備
	平成 23 年 9 月 15 日	芝浦工業大学 (豊洲 キャンパス) 408 教室	春季, 秋季研究発表会の企画, 準 備状況フォロー 研究会運営マニュアルの整備
国際部会	平成 23 年 5 月 6 日	メールによる審議	Noise News International の要 請による INCE/J のプロフィール の更新
	平成 23 年 5 月 16 日	メールによる審議	INTER-NOISE 2010 における I-INCE 総会議事の確認 Congress Selection Committee への候補者の検討
編集委員会	平成 23 年 4 月 13 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 3 号~35 巻 6 号 査読 7 件 (3 号掲載 1 件含む)
	平成 23 年 5 月 11 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 3 号~35 巻 6 号 査読 8 件 (3 号掲載 1 件含む)
	平成 23 年 6 月 10 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 4 号~36 巻 1 号 査読 8 件 (4 号掲載 1 件含む)
	平成 23 年 7 月 11 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 4 号~36 巻 1 号 査読 8 件 (4 号掲載 1 件含む)
	平成 23 年 8 月 8 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 5 号~36 巻 2 号 査読 7 件 (5 号掲載 1 件含む)
	平成 23 年 9 月 9 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 5 号~36 巻 2 号

			査読 8件 (5号掲載 1件含む)
	平成 23 年 10 月 17 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 6 号～36 巻 3 号 査読 7 件 (1号掲載 1件含む)
	平成 23 年 11 月 11 日	工学会事務所会議室	特集 35 巻 6 号～36 巻 3 号 査読 7 件 (1号掲載 2件含む)
	平成 23 年 12 月 9 日	工学会事務所会議室	特集 36 巻 1 号～36 巻 4 号 査読 7 件 (1号掲載 3件含む)
	平成 24 年 1 月 16 日	工学会事務所会議室	特集 36 巻 1 号～36 巻 4 号 査読 8 件 (1号掲載 3件, 2号 掲載 1件含む)
	平成 24 年 2 月 17 日	工学会事務所会議室	特集 36 巻 2 号～36 巻 5 号 査読 6 件 (2号掲載 1件含む)
	平成 24 年 3 月 12 日	工学会事務所会議室	特集 36 巻 2 号～36 巻 5 号 査読 6 件 (2号掲載 3件含む)
選挙管理委員会	平成 23 年 10 月 11 日	工学会事務所会議室	委員長の選出、選挙手順の確認等
	平成 23 年 12 月 16 日	工学会事務所会議室	選挙日程の確認、投票用紙の確認等
	平成 24 年 1 月 19 日	工学会事務所会議室	投票用紙、理事・評議員候補者名簿の確認等
	平成 24 年 2 月 24 日	工学会事務所会議室	投票用紙の開票
広報委員会	平成 23 年 4 月 20 日	工学会事務所会議室	Q&A について 会員コラムについて 会員専用ページの構築について
	平成 23 年 6 月 15 日	工学会事務所会議室	Q&A について 会員コラムについて ホームページの整備について
	平成 23 年 8 月 9 日	工学会事務所会議室	会員コラムについて 会員専用ページの構築について
	平成 23 年 10 月 18 日	工学会事務所会議室	Q&A 検索システムについて 広告掲載募集の HP 等への掲載について
	平成 23 年 12 月 13 日	工学会事務所会議室	Q&A について 会員コラムについて 会員専用ページの構築について
	平成 24 年 2 月 22 日	工学会事務所会議室	Q&A について 会員コラムについて ホームページの整備について 会員専用ページの構築について
会勢拡大委員会	平成 23 年 9 月 14 日	工学会事務所会議室	会員会費の特例制度 (終身会員、 学生会員の会費無料化) について 学生対象研究発表会について
	平成 23 年 10 月 24 日	工学会事務所会議室	会員会費の特例制度 (ある年齢に 達した時の一括払い) について 学生会員の会費無料化) について
	平成 23 年 12 月 1 日	工学会事務所会議室	会員会費の特例制度 (ある年齢に 達した時の一括払い) について

			学生会員の会費無料化について 自治体会費の費目変更方法)について
	平成 24 年 1 月 31 日	工学会事務所会議室	会員会費の特例制度設置に伴う 会員規定の改訂について
広告拡大委員会	平成 23 年 6 月 1 日	工学会事務所会議室	特集広告の企画について 研究発表会論文集の広告募集方法について
	平成 23 年 9 月 2 日	工学会事務所会議室	広告掲載募集の HP 利用などについて 他の委員会との連携について
	平成 23 年 12 月 7 日	工学会事務所会議室	事務的作業の効率化について 他の委員会との連携について
	平成 24 年 3 月 7 日	工学会事務所会議室	今後の広告募集方法と次期委員会への引継ぎ事項について
社会貢献委員会	平成 23 年 4 月 15 日	工学会事務所会議室	具体的な活動について
	平成 23 年 8 月 30 日	工学会事務所会議室	具体的な活動について
受託事業委員会	平成 23 年 9 月 25 日	メールによる審議	平成 23 年度受託事業に係る協議
	平成 23 年 10 月 17 日	メールによる審議	平成 23 年度受託事業に係る協議
資産運用委員会	平成 24 年 3 月 6 日	工学会事務所会議室	今後の資産運用について
認定技士資格審査委員会	平成 24 年 3 月 21 日	工学会事務所会議室	認定技士申請者の資格審査
研究功績賞選定委員会	平成 24 年 1 月 17 日	工学会事務所会議室	対象となる功績者の選定と審査基準の確認等
	平成 24 年 3 月 21 日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
環境デザイン賞選定委員会	平成 24 年 1 月 17 日	工学会事務所会議室	対象となる研究開発等の業績の選定と審査基準の確認等
	平成 24 年 3 月 21 日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
研究奨励賞選定委員会	平成 24 年 1 月 17 日	工学会事務所会議室	対象となる研究発表の選定と審査基準の確認等
	平成 24 年 3 月 21 日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
守田栄論文賞選定委員会	平成 24 年 1 月 17 日	工学会事務所会議室	対象となる研究論文の選定と審査基準の確認等
	平成 24 年 3 月 21 日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定

## Ⅱ. 騒音及び振動に関する学術・技術の発展と普及・啓発を図り、もって国民の生活環境の保全と質の向上に寄与する事業（公益目的事業）

### 1. 調査・研究を行う事業

#### 1.1 研究部会および研究分科会等における活動

(1) 研究部会では、後述する平成23年春季研究発表会及び平成23年秋季研究発表会の開催地を決定するとともに、その実行委員会を立ち上げ運営を委託した。さらに今後研究発表会の円滑な運営を図るため、その運営マニュアルを整備した。下記研究分科会活動を統括フォローし、その活発な活動を奨励支援した。今後の規格整備を円滑に行うため、新たに下記「規格検討委員会」を設置することとした。

(2) 個々の研究分科会の活動内容は以下のとおりである。

##### ・遮音分科会

前年度から引き続き、鉄道騒音の測定・評価方法について検討した。鉄道騒音を含む試験音と道路騒音のみの試験音が同数含まれるセットによるラウドネス評価実験を実施し、主観量と試験音全体の  $L_{Aeq}$  等との対応をみた。その結果、鉄道騒音を含む試験音と道路騒音のみの試験音とも主観量と  $L_{Aeq}$  との対応が良いが、鉄道騒音を含む試験音の方が同じ  $L_{Aeq}$  であっても大きく評価される傾向が示された。

鉄道騒音の測定・評価方法に関する検討は本年度で一区切りとし、来年度からは高い暗騒音レベルにおけるサッシ等の音圧レベル差測定方法等に関する検討を開始することとした。

##### ・床衝撃音分科会

分科会の下にゴムボールWGと乾式二重床WGを組織して活動しており、今年度は分科会を6回、ゴムボールWGを4回、乾式二重床WGを5回開催した。ゴムボールWGでは、人の歩行や小走りとはJISの標準重量衝撃源であるゴムボールによる床衝撃音を合同実験で収集し、両者の対応性について検討を進めるとともに、スリッパなどによる簡便な床衝撃音低減対策の検討も進めている。乾式二重床WGでは、委員から提供された実建物における床衝撃音低減性能、乾式二重床の仕様や納まりのデータを基に、乾式二重床の仕様および性能の全国的な実態（性能水準）の把握、乾式二重床の床衝撃音遮断性能に対する影響要因の抽出と定量的な把握を進めている。得られた成果は、平成23年春季研究発表会オーガナイズドセッション、日本建築学会第70回音シンポジウムにおいて公表した。

##### ・環境騒音振動行政分科会

30名の委員と環境省オブザーバー3名により構成されている。平成23年度の主な分科会活動としては、春季研究発表会オーガナイズドセッション「ノイズポリシー」を担当し、音環境を改善するための政策について発表した。その後、ノイズポリシーの議論を具体化するため4回の会合をもち、本分科会としての共同研究のテーマ（苦情処理事例研究、自治体担当者アンケート、自動車騒音の常時監視データの活用等）について協議した。また、国際学会等の帰国報告、苦情処理事例の紹介、航空機騒音の新環境基準対応等、委員が提供する話題をもとに自由な意見交換を行っている。

##### ・騒音伝搬分科会

屋外の騒音伝搬に関する研究動向の調査や騒音伝搬に関連する国際規格の審議などを、分科会

設立より継続して実施している。平成 23 年度も引き続き 20 名の委員で活動した。今年度は二回の分科会を開催し、分科会メンバによる外部研究予算（科学研究費補助金）への申請を行うための意見交換を中心に実施した。その結果、防災音声放送の聞こえにくさと屋外音響伝搬に関連するテーマを構築し予算要求した。

#### ・低周波音分科会

平成 23 年度は、計 4 回（通算第 80 回～第 83 回）の分科会を開催した。おもな討議内容（話題）は、次のとおりである。

火山噴火に係わる低周波音・低周波音の苦情対応と低周波音問題対応の手引書（環境省）・短いトンネルを対象とした列車通過による圧力波の性状・最近の低周波音問題の現状・日本風力発電協会による環境評価規程・室内での低周波音測定における風の影響・地震に対する不安が生活騒音の認知に及ぼす影響・低周波音領域の音の聴覚閾値実験結果・新しい低周波音レベル計（広帯域音圧レベル測定器）の開発について等である。

その他、Wind Turbine Noise 2011、INTER-NOISE 2011 の会議報告、平成 24 年 5 月に開催される低周波音と振動の国際会議（ILFN）の参加依頼や、鉄道総合技術研究所（国立）の施設見学を実施している。

#### ・アクティブコントロール分科会

今年度は 4 回の分科会を開催した。第 1 回（通算第 22 回）分科会は 6 月 16 日（木）にキャンパスプラザ京都において開催し、九州大学の池田生馬先生に「非定常性を考慮した能動的音響制御」という内容でご講演いただいた。第 2 回（通算第 23 回）分科会は 9 月 8 日（木）に関西大学において開催し、アクティブコントロールのご研究で世界的に有名な Northern Illinois 大学の Sen Maw Kuo 先生に「Active Noise Control: Signal Processing Issues, Challenges, and Applications」という内容で、また筑波大学の牧野昭二先生に「独立成分分析に基づくブラインド音源分離」という内容でそれぞれご講演いただいた。第 3 回（通算第 24 回）分科会は 10 月 20 日（木）に NHK 放送技術研究所において開催し、アクティブコントロールのご研究で世界的に有名な Southampton 大学の Phillip Nelson 先生に「Inverse problems and sound reproduction」という内容で、また九州大学の尾本先生に「Sound Field Reproduction and Creation」という内容でそれぞれご講演いただいた。最後に第 4 回（通算第 25 回）分科会は 3 月 12 日（月）に関西大学東京センターにおいて開催し、3 人の講師の先生方に話題提供いただき、活発に議論を行った。

#### ・音環境デザイン分科会

音環境の「未来」を見据え、「今」何をなすべきかを、「過去」を省察してゆくことで広く社会に提起することが本分科会の使命である。平成 23 年度の分科会の活動方針としては、学会としての「ノイズポリシー」を構築することを掲げて活動した。震災の影響で年度当初に予定していた会合は実施不可能となったが、後期に入ってから分科会委員による会合は 3 回実施し、そのうち 1 回は公開の討論会とした。委員の他に外部識者の瀬林伝氏（元・神戸市環境局）からも話題提供をいただき、活発な議論が行われた。当日は 33 名の参加者をみた。平成 24 年度も継続して同じテーマについて検討し、シンポジウムの開催を目指して活動する予定である。さらに、新たな課題である「住民にわかりやすい音環境の評価」に関する検討も重ねて行きたい。

#### ・環境振動評価分科会

環境振動評価に係る最新情報の共有と整理、それに基づく意見交換、委員間の共同研究の推進



などを目的として、年4回の分科会を開催した。今年度の主な活動としては、分科会活動の一環を INTER-NOISE 2011、平成23年秋季研究発表会で発表したほか、平成24年春季研究発表会のオーガナイズドセッションの企画、準備を行った。

- ・道路交通振動予測式作成分科会

平成23年度は、6/9、8/1、10/6、12/14、2/28の5回分科会を開催した。高架道路の予測式構築のため、委員を増員した。前半は、高架道路を中心に測定事例を持ち寄り検討を行った。

高架橋WGでは、道路交通振動予測式を作成する際に、どのような影響因子あるいはパラメータを考慮しなければならないかということについて、各自意見を持ち寄り討議した。切土・盛土WGでは、法面の影響をどのように入れていくかの意見交換がなされた。

また、予測手法の使われ方に関するアンケートを計画しており、アンケート原案について議論がなされた。平成22年に実施した、盛土・切土道路の実測の結果を研究発表会等で発表した。

- ・設備機器発生音測定法分科会

設備機器により発生する騒音の実務的な測定・評価方法の確立を目指して活動を行っている。特に、JIS A 1429:2007「建築物の現場における給排水設備騒音の測定方法」を実際の現場で適用した場合の課題の抽出に焦点を絞り、委員自身による測定を通して検証を行っている。

- ・社会調査データアーカイブ分科会

日本の社会調査データアーカイブを平成23年4月に設立したことを受けて、データセットの整備、データセットの寄託・受け入れ体制の整備を行った。韓国、中国、ベトナム、台湾、香港の研究者に呼びかけてアジアのデータアーカイブの設立へ向けて活動を開始した。また、鹿島学術振興財団の平成23年度研究助成に研究課題「日本における交通騒音社会調査データアーカイブの設立、およびデータの二次分析を通じた騒音施策のための科学的基盤の提示」(代表：川井敬二)が採択された。この助成金を基に、平成24年度にこれまで収集したデータを基に日本の代表的な暴露反応関係を求めて、種々の要因の影響に関して分析を行う予定である。

- ・高周波音検討分科会

当分科会は、10 kHzを超える高周波音を含む騒音の計測や評価に係る問題を調査研究すると共に、その解決に向けた検討を行う場として平成21年5月に発足し、今期、8名の委員で活動してきた。過去2ヶ年の活動報告として、平成23年9月に大阪で開催された国際騒音制御工学会議 INTER-NOISE 2011 で、新幹線鉄道や在来鉄道の曲線沿線における高周波音の発生状況や、鉄道騒音の印象に与える高周波音の影響を調べた聴感実験の一部結果を報告した。国際会議の後、鉄道曲線部での高周波音の発生要因を解明するための実測調査や、人の聴こえに対する高周波音の影響を調べた聴感実験を実施した。これらの調査結果については、平成24年、当学会の春季研究発表会で報告予定である。

## 1.2 国内外の規格作成等に係る活動

平成23年度は国内外における規格作成について具体的な活動はなかったが、当学会研究部会の下にあった「JIS原案検討委員会」を改組して「規格検討委員会」を新たに設置した。ISO規格を翻訳しJIS化する活動だけではなく、ISO規格そのものの審議に関する議論等も担当することで、国内のみならず国際的にも環境の保全と向上に資することを目指す。

### 1.3 受託調査研究業務の実施

騒音・振動制御に関係する業務を受託し、騒音・振動技術の発展に努めた。平成 23 年度の受託調査研究業務は以下の通りである。

#### (1) 風力発電等による低周波音の人への影響評価に関する研究

委託先：千葉工業大学

実施期間：平成 23 年度（研究自体は平成 22 年度から平成 24 年度）

概要：低周波数成分を含む風車騒音の影響を科学的に調べることを目的として、風車騒音の実測調査、風力発電施設周辺の住民を対象とした社会反応調査、低周波数成分を含む騒音に対する人間の生理・心理的反応を調べるための聴感評価実験、及び内外の関連研究並びに行政的対応に関する資料の収集・整理を行った。

#### (2) 平成 23 年度 建設作業振動対策に関する検討調査業務

委託先：環境省

実施期間：平成 23 年 11 月 14 日から平成 24 年 3 月 19 日

概要：自治体の職員が苦情処理及び建設事業者への指導を行う際の参考として活用できる「自治体担当者のための建設作業振動対策の手引き（仮）」の作成を目的とした。

実施方式：検討委員会審議方式

検討委員（敬称略）：塩田正純（芝浦工業大学）、末岡伸一（末岡技術士事務所）、林健太郎（ベネック振動音響研究所）、山本耕三（東洋建設株式会社総合技術研究所）、鴨志田均（川崎市公害研究所）、[特別委員] 佐野昌伴（社団法人建設機械化協会施工技術総合研究所）、木村康正（神戸製鋼所株式会社）

#### (3) 平成 23 年度 風力発電施設の騒音・低周波音に関する検討調査業務

委託先：環境省

実施期間：平成 23 年 10 月 12 日から平成 24 年 3 月 19 日

概要：風力発電施設からの騒音・低周波音について、これまで環境省が行ってきた検討結果を基礎として更に知見を追加し、風力発電施設からの騒音・低周波音を適切に調査、予測、評価する手法について検討を行い、環境影響評価を行うに当たって現段階で最適と思われるものを取りまとめることを目的とした。

実施方式：検討委員会審議方式

検討委員（敬称略）：橘 秀樹（千葉工業大学）、落合博明（小林理学研究所）、影山隆之（大分県立看護科学大学）、塩田正純（芝浦工業大学）、末岡伸一（末岡技術士事務所）、藤本一壽（九州大学大学院）、柳憲一郎（明治大学法科大学院）、矢野 隆（熊本大学大学院）、今泉博之（産業技術総合研究所）、大村 卓（環境省水・大気環境局大気環境課）、中西正光（環境省水・大気環境局大気環境課）、櫻井希実（環境省水・大気環境局大気環境課）、佐藤大樹（環境省総合環境政策局）、亀井 雄（環境省総合環境政策局）、橘 幹広（経済産業省原子力安全・保安院）

## 2. 研究発表会や講習会等を行う事業

### 2.1 研究発表会の開催

#### (1) 平成 23(2011)年春季研究発表会

平成 23 年 4 月 27 日に東京工業大学蔵前会館を会場として開催し、講演論文集を刊行した。発表件数は 27 件、参加者実数は 141 名であった。なお、春季研究発表会はオーガナイズドセッションを取り入れた発表会形式となっており、平成 23 年の担当分科会と講演テーマは以下の通りである。

- ・道路交通振動予測式作成分科会：「地盤を伝わる振動の調査・測定，評価，予測」
- ・社会調査データアーカイブ分科会：「騒音の社会調査データアーカイブの設立と利用」
- ・環境騒音・振動行政分科会：「ノイズポリシー」
- ・床衝撃音分科会：「集合住宅の床衝撃音」

## (2) 平成 23(2011)年秋季研究発表会

平成 23 年 9 月 15 日～16 日の 2 日間、芝浦工業大学豊洲キャンパスを会場として開催し、講演論文集を刊行した。発表件数は 67 件、参加者実数は 281 名であった。また、オーガナイズドセッションを以下の講演テーマで実施した。

- ・「騒音による健康影響」
- ・「機器・製品音設計に関する研究動向」

## 2.2 特別講演会等の開催（敬称略）

○平成 23 年度通常総会（平成 23 年 5 月 18 日開催）において、特別講演会を開催した。演題および講演者は以下の通りである。

- ・「騒音振動行政の現状と課題」：大村 卓（環境省水・大気環境局大気生活環境室）
- ・「公益社団法人としての心得と自覚，そして活動へー移行の登記後の運営と実務ー」：山本盛明（公益財団法人公益法人協会）

○平成 23(2011)年秋季研究発表会の 1 日目（平成 23 年 9 月 15 日）において、特別講演会を開催した。演題および講演者は以下の通りである。

- ・「景観設計と音」：杉山和雄（芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科）

○平成 23(2011)年秋季研究発表会の 1 日目（平成 23 年 9 月 15 日）において、シンポジウム「騒音制御工学会の社会貢献について考える」を開催した。コーディネータは山田一郎（空港環境整備協会）、司会者は長倉清（鉄道総合技術研究所）で、演題および講演者は以下の通りである。

- ・「公益社団法人となった日本騒音制御工学会と社会貢献活動について」岩橋清勝（リオン）
- ・「公害紛争処理と騒音問題」内藤克彦（公害等調整委員会）
- ・「音を聴く」ことの教育的意味」鈴木秀樹（慶應義塾幼稚舎）
- ・「海を取り巻く問題点とその解決に向けてーDiscover Blue の提案と挑戦ー」水井涼太（NPO 法人ディスカバーブルー）

○平成 23 年 9 月 12 日に東京大学生産技術研究所駒場リサーチキャンパスにおいて、特別講演会を開催した。演題および講演者は以下の通りである。

- ・「交通騒音の制御への国際的な取り組み（Perspectives on Transportation Noise Policies Worldwide）」 W. Lang & T. Kihlman
- ・「米国における騒音制御への新たな国家的な取り組み（Towards a Quieter America）」 L. Finegold
- ・「風力発電に係る騒音問題と各国の規制等（AWEA/CanWEA Expert Sound Panel and Wind Turbine Sound Regulations）」 M. Bastasch

## 2.3 技術講習会の開催

平成 23 年度は技術講習会を 4 回開催し、騒音・振動技術の普及・向上に貢献した。実施した技術講習会は以下の通りである。

### (1) 第 78 回技術講習会「騒音・振動技術の基礎と測定実習」

開催日：平成 23 年 6 月 16 日～17 日

会場：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 中セミナー室

講師（敬称略）：坂本慎一（東京大学生産技術研究所）、岡田恭明（名城大学）、安藤 啓（鹿島建設(株)技術研究所）、松島 貢（千葉市）、河野正秀（リオン）、野村祐吉（スペクトリス）、平田圭造（小野測器）、牧野康一（小林理学研究所）

受講者数：1 日目 62 名、2 日目 58 名

### (2) 第 79 回技術講習会「騒音対策の基礎と考え方」

開催日：平成 23 年 11 月 14 日（月）

場所：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 中セミナー室

講師（敬称略）：井上保雄（アイ・エヌ・シー・エンジニアリング）、坂本慎一（東京大学生産技術研究所）、古賀貴士（鹿島建設技術研究所）、森 卓支（モリノイズコントロールオフィス）

受講者数：24 名

### (3) 第 80 回技術講習会「航空機騒音と鉄道騒音の測定・評価マニュアルの解説と測定方法の実習」

開催日：平成 23 年 11 月 28 日～29 日

場所：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 中セミナー室

講師（敬称略）：難波和宏（環境省自動車環境対策課）、橘 秀樹（千葉工業大学総合研究所）、山田一郎（空港環境整備協会）、長倉 清（鉄道総合技術研究所）、篠原直明（成田国際空港振興協会）、廣江正明（小林理学研究所）、杉尾明紀（千葉県環境研究センター）

受講者数：1 日目 27 名、2 日目 18 名

### (4) 第 81 回技術講習会「騒音・振動の苦情処理」

開催日：平成 24 年 2 月 3 日

会場：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 大会議室

講師（敬称略）：中西正光（環境省大気生活環境室）、荒木真一（公害等調整委員会）、長船寿一（高速道路総合技術研究所）、桑原 厚（松戸市環境保全課）、平松友孝（音・環境研究所）、落合博明（小林理学研究所）、末岡伸一（末岡技術士事務所）

受講者数：76 名

## 2.4 展示会の開催

平成 23 年秋季研究発表会（平成 23 年 9 月 15 日～16 日）において、カタログ・材料・機器等の展示会を開催した。

## 3. 会誌や学術書等の刊行を行う事業

### 3.1 会誌の刊行

「騒音制御」35 巻 2 号から 36 巻 1 号の 6 冊を隔月 1 日に発行し、会員に配布した。主な内容は次の通りである。

巻		35					36	計
号		2	3	4	5	6	1	
本文ページ		113	57	68	59	58	117	472
事	巻頭言						1	1
	総論	6	2	1	2	2	1	14

解 説	61 (10)	40 (8)			8 (2)	38 (7)	147
技術資料		4 (1)	43 (8)	36 (8)	40 (7)	9 (2)	132
会議報告	23 (6)					28 (7)	51
会 告	2 (1)						2
エッセイ			4 (2)			3 (1)	7
投稿－論文	7 (1)		9 (1)	9 (1)		19 (2)	44
投稿－技術報告	8 (1)	8 (1)				6 (1)	22
投稿－会員の声				4 (2)			4
研究部会報告				3			3
書 評				1			1
投稿規定，執筆要領						8	8
情報コーナー	3	1	2	2	3	2	13
工学会報告	2	1	8	1	2	1	15
第 35 巻総目次					2		2
編集後記	1	1	1	1	1	1	6
工学会通信	18	12	14	12	10	6	72
広 告	8	8	8	8	9	8	49
発行部数	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550

注 1) カッコ内の数値は編数

2) 工学会通信の内容は、研究発表会の講演募集やプログラム、講習会開催案内、その他周知記事である。

また、各号の特集タイトルは以下の通りである。

- 35 巻 2 号「環境振動の基礎知識」
- 35 巻 3 号「産業界における音環境への取り組み」
- 35 巻 4 号「騒音制御・音響技術の多様性」
- 35 巻 5 号「多様化する集合住宅設備の騒音・振動」
- 35 巻 6 号「騒音制御と対策に役立つ音の可視化」
- 36 巻 1 号「発電設備の騒音・振動」

(独) 科学技術振興機構が進める科学技術情報発信・流通総合システム J-Stage の統合事業に参加し、騒音・振動に係わる会誌の特集記事、論文・技術報告などの電子ファイルの公開に努めた。また、今年度から、特集記事の情報を、ツイッターを利用して広く一般に発信する試みも始めた。

### 3.2 出版事業

一般の読者層や理系の高校生などを対象にした、様々な音や騒音に関するやさしい解説本シリーズ-Dr. Noise の『読む』音の本ーの出版に向けて編集作業を行った。「騒音の基礎」「振動の基礎」「音のバリエーション」「低周波音のはなし」「航空機騒音のはなし」の 5 冊について執筆／編集を進めた。

#### 4. 国内外の学協会等と交流する事業

##### (1) 国際会議の開催・準備等

- 平成 23 年 9 月 4 日～7 日の 4 日間、大阪国際会議場を会場として、第 40 回国際騒音制御工学会議（INTER-NOISE 2011）を開催した。
- 平成 26 年に奈良で開催される ICBEN 2014 の準備等に協力した。

##### (2) 国際学会への協力

国際騒音制御工学会（I-INCE）加盟団体としてその活動に協力するとともに、国際音響学会（ICA）、西太平洋地区音響学会（WESPAC）、INCE/USA 等と情報交換を行った。平成 23 年度の活動状況は以下の通りである。

- Noise News International に当学会の活動状況を報告した。
- 国際騒音制御工学会（I-INCE）の総会に今泉博之副会長を派遣した。
- 国際騒音制御工学会（I-INCE）の Congress Selection Committee に山本貢平監事を推薦した。
- 国際騒音制御工学会（I-INCE）Corresponding Member に尾本章理事と上野佳奈子理事を推薦した。

##### (3) 国内の他学協会等からの共催等の依頼

日本音響学会、日本機械学会、自動車技術会、東京工業大学精密工学研究所等が開催する講習会、シンポジウム等に協賛した（9 件）。

#### 5. 業績表彰に関する事業

##### (1) 研究功績賞

騒音、振動、音・振動環境に関し、一連の研究あるいは著書の著作又は編纂の業績により、学術及び技術の進展に大きく貢献し、その功績が顕著である名誉会員又は正会員に贈呈される賞で、平成 23 年度の研究功績賞は、以下の 2 名に決定した。なお、賞の贈呈は平成 24 年度の定時総会の際に行う。

平成 23 年度研究功績賞受賞者（敬称略）

- 中野有朋「機械騒音・振動に関する一連の研究とその普及・啓発」
- 工藤信之「流体機械騒音の低減に関する一連の研究業績」

##### (2) 守田栄論文賞

騒音、振動、音・振動環境に関し、学術及び技術の進展に貢献するところが大きい研究業績を学会誌に発表した名誉会員、正会員又は学生会員に贈呈される賞で、平成 23 年度の守田栄論文賞は、以下の論文に決定した。なお、賞の贈呈は平成 24 年度の定時総会の際に行う。

平成 23 年度守田栄論文賞受賞者（敬称略）

- 平栗靖浩、穴井 謙、藤本一壽（九州大学大学院人間環境研究院）  
「道路に面する地域における「騒音に係る環境基準」評価のための GIS 数値地図の建物面積の補正に関する検討」

##### (3) 環境デザイン賞

都市環境、住環境、作業環境、車室内環境等の快適性向上のための計画、実施事例、研究、技術

開発などの音・振動環境の改善に優れた業績を挙げた法人、グループ又は個人に贈呈される賞で、平成 23 年度の環境デザイン賞は、以下の 2 法人に決定した。なお、賞の贈呈は平成 24 年度の定時総会の際に行う。

平成 23 年度環境デザイン賞受賞者（敬称略）

○大成建設株式会社

「超高層建物の閉鎖型解体工法「テコレップシステム」の開発」

○戸田建設株式会社

「アクティブ・ノイズ・コントロール（ANC）を用いた建設機械騒音の低減」

#### (4) 研究奨励賞

騒音、振動、音・振動環境に関する学術及び技術の奨励のため、研究発表会で優秀な研究を講演発表を行った者で、有為と認められる新進の研究者、技術者に贈呈される賞で、平成 23 年度の研究奨励賞は、以下の 4 名に決定した。なお、賞の贈呈は平成 24 年度の定時総会の際に行う。

平成 23 年度研究奨励賞受賞者（敬称略）

○石川聡史（ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社）

「在来線沿線の高所空間を対象とした改良型遮音工による騒音低減効果について」

○斎藤英俊（西日本旅客鉄道株式会社）

「建物壁面が鉄道騒音の測定値に与える影響の定量評価」

○市川博之（九州大学芸術工学府）

「多重極音源を用いた能動騒音制御の試み」

○三浦久士（日本大学）

「鉛直方向全身振動感覚の評価に与える音刺激の影響」

### Ⅲ. 騒音及び振動に関する認定技士の資格認定を行う事業（その他の事業（相互扶助等事業））

騒音、振動の分野における学術技術に関して高度の専門的能力を有する方に対し、資格制度に基づき、公益社団法人日本騒音制御工学会認定技士の資格認定を行うとともに、活動の強化を図った。平成 23 年度に認定した認定技士は以下の通りである。

平成 23 年度公益社団法人日本騒音制御工学会認定技士登録者

登録番号：110

氏 名：山田一郎

所 属：財団法人空港環境整備協会 航空環境研究センター

登録番号：111

氏 名：山本貢平

所 属：財団法人小林理学研究所



## 監 査 報 告

私たち監事は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの平成23事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等(貸借対照表(内訳表を含む)、正味財産増減計算書(内訳表を含む)、財産目録、財務諸表に対する注記)及びその附属明細書について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成24年5月2日

公益社団法人日本騒音制御工学会

監事

岩瀬昭雄 

監事

山本貢平 